スポーツ指導者の類型化とその情報入手の違いに関する研究

スポーツビジネス研究領域

5011A069-3 藤岡 成美

研究指導教員：間野 義之 教授

1 緒言

スポーツ指導者（以下、指導者）は、地域のスポーツ環境でスポーツを実施する上で、非常に重要な人的資源である。スポーツ基本計画（文部科学省、2012）においても地域のスポーツ環境整備の具体的施策として、スポーツ団体による量的・質的な指導者養成事業の実施が期待されている。

量的な養成に関しては、公認スポーツ指導者登録者数に着目すると指導者数は増加傾向にある（日本体育協会、2012）。一方で、質的な養成に関しては、近年でも地域スポーツにおける指導者の知識不足

（スポーツ健康産業団体連合会、2008）が指摘されている。以上より、正しい知識を有する指導者の養成は、我が国のスポーツ振興を推進していく上で重要な課題であるといえよう。

知識を構築するには学習が必要であるとされ（Kirschner et al., 1997）、この学習に対してアプローチを行うことは指導者の知識構築を図る上で重要であると考えられる。その際は、Weather & Trudel(2006)の学習プロセスにおける「外部経験」に対するアプローチが可能である。このアプローチの一つとして、指導者に対して指導に関する情報提供を行うことは、指導者の学習及び知識構築への一助となると考えられる。情報提供は、「どのような指導者が」「どのような内容を」「どのような情報源から」情報入手をしているのかを踏まえた上で行う必要があるが、我が国において指導者の情報入手に着目した研究はほとんど見られない。

海外では指導者の特徴によって特定の指導者に着目し、どのような情報入手を行っているのかを明らかにした研究がいくつか見られる(Lemyre et al., 2007; Erickson et al., 2008; Reade et al., 2008a, 2008b; Wright et al., 2007; Wilson et al., 2010)。しかし事例研究が多く、異なった特徴を持つ指導者間での比較が行われていない。また、比較する際には指導者を分類する必要があるが、先行研究は「競技志向レベル」「指導対象世代」「指導領域」のいずれか単変量での分類が多く、実際にはこれらの変数が

組み合わさって、複雑な指導者のパターンが存在すると予想される。その際に統計的手法を用いることで、より客観的にある程度の規模の集団へと分類が可能となり、さらに分類された指導者の特徴を明らかにできれば、それぞれの特徴に見合ったアプローチを可能となると考えられる。すなわち、指導者を統計的に分類し、その特徴や情報入手の違いを明らかにすることは、指導者に合わせた効果的な情報提供を行う上での重要なエビデンスとなるだろう。

以上より、本研究はスポーツ指導者を類型化してその特徴を明らかにし、さらに各クラスター間における入手する情報の内容、使用する情報源の違いを明らかにすることを目的とする。

2 方法

2.1 調査対象及び手続き

日本体育協会の指導者データベースから、教師・上級教師を除く競技別指導者資格を保持または保持していた指導者 3000 名を無作為抽出し、郵送法による質問紙調査を行った。有効回収数 1104 名（有効回収率 36.8%）から、指導者の類型化の際には 549 名を解析対象とし、その上で「情報入手を行っている」と回答した 431 名を各クラスターと情報入手の関連を見る際の解析対象とした。

2.2 調査内容

指導者の基本属性として性別、年齢、指導経験年数、類型化の変数として指導領域、競技志向レベル、指導対象世代を調査した。情報入手に関しては、入手する情報の内容、使用する情報源を調査した。

2.3 解析

指導領域、競技志向レベル、指導対象世代を投入変数とした Ward 法の平方ユークリッド距離を用いた階層クラスター分析（2 値データ）を行い、指導者の基本属性との関連についてカイ 2 乗検定及び残差分析、分散分析を行った。次に、各クラスターと入手する情報の内容及び使用する情報源について、カイ 2 乗検定及び残差分析を行った。有意水準は 5% に設定し、統計解析には IBM SPSS Statistics 20.0 を使用した。

3 結果

3.1 スポーツ指導者の類型化と各クラスターの特徴

階層クラスター分析の結果、「多世代指導者」「成人参加型指導者」「成人競技型指導者」「青少年参加型指導者」「青少年競技型指導者」「運動部活動指導者」の6クラスターに分類され、各クラスターの特徴として性別、年齢、指導頻度、情報入手の有無に有意差が見られた。

3.2 各クラスターと入手する情報の内容、使用する情報源との関連

カイ2乗検定の結果、入手する情報の内容に関しては「トレーニングや練習方法」「メンタル」「戦術・戦略」「栄養」に(表1)、使用する情報源に関しては「他の指導者の実践」「ビデオ・DVD」「インターネット」に有意差が見られた(表2)。

表1 各クラスターと入手する情報の内容との関連

	クラスター1 多世代指導者	クラスター2 成人参加型 指導者	クラスター3 成人競技型 指導者	クラスター4 青少年参加型 指導者	クラスター5 青少年競技型 指導者	クラスター6 運動部活動 指導者	合計	X ²
n	40	89	32	63	88	115	427	
トレーニングや練習方法	9.4%	20.8%	7.3%	14.8%	20.8%	26.3%	100.0%	18.027**
技術	29	61	23	41	74	91	319	10.413
指導方法	33	58	20	49	69	76	305	10.315
身体	37.5%	46.1%	43.8%	38.7%	45.5%	47.0%	44.3%	1.767
メンタル	15	28	16	18	37	53	162	12.899**
戦術・戦略	7	24	17	11	39	63	161	41.472***
スポーツ障害	11	22	11	18	40	41	143	10.311
コミュニケーション	27.5%	28.7%	34.5%	28.8%	45.5%	35.7%	33.5%	8.331
栄養	2	13	21.9%	12.7%	34.1%	32.2%	22.9	26.444***

注1)表中の数値は、各項目に対して入力している上回答した数を示す。
注2)表中のnは、各クラスターの人数を母数とした場合のnを示す。
注3) **は、調整済み残差が1.96以上で有意であることを示す。
注4) -は、調整済み残差が-1.96以下で有意であることを示す。

表2 各クラスターと使用する情報源との関連

	クラスター1 多世代指導者	クラスター2 成人参加型 指導者	クラスター3 成人競技型 指導者	クラスター4 青少年参加型 指導者	クラスター5 青少年競技型 指導者	クラスター6 運動部活動 指導者	合計	X ²
n	41	89	32	64	88	115	429	
他の指導者	9.4%	20.8%	7.3%	14.8%	20.8%	26.3%	100.0%	17.174**
ビデオ・DVD	68.2%	49.4%	65.8%	78.1%	64.8%	72.2%	68.0%	4.285
インターネット	27	53	17	41	55	84	257	2.784
自分のスポーツ経験	51.2%	51.7%	60.0%	53.1%	56.7%	60.8%	53.0%	6.288
指導経験	38.5%	44.9%	46.9%	43.8%	43.2%	39.1%	44.2%	4.767
ビデオDVD	48.8%	38.2%	43.8%	37.5%	38.8%	43.5%	41.7%	2.233
インターネット	29.2%	27.0%	50.0%	29.7%	35.2%	54.8%	38.5%	14.173**
SNS	0.0%	1.1%	3.1%	0.0%	1.1%	1.3%	1.2%	2.835

注1)表中の数値は、各項目に対して入力している上回答した数を示す。
注2)表中のnは、各クラスターの人数を母数とした場合のnを示す。
注3) **は、調整済み残差が1.96以上で有意であることを示す。
注4) -は、調整済み残差が-1.96以下で有意であることを示す。

4 考察

4.1 スポーツ指導者の類型化と各クラスターの特徴

形成された各クラスターの割合を見ると、青少年を指導対象とした指導者が多い一方で、成人を指導対象とした指導者も少なからず存在することが分かる。成人参加型及び競技型指導者や多世代指導者は、先行研究ではスポットをあてられていないが、本研究でその存在や規模の大きさを確認できたことは重要な知見である。

各クラスターの特徴として有意差が見られた4項目は、特に競技志向レベルと指導対象世代によって傾向が見られた。青少年を指導対象とした指導者の特徴は、先行研究や過去の調査の傾向と同様である。一方で、成人を指導対象とした指導者の特徴は新たに明らかとなった、非常に重要なデータといえる。

4.2 各クラスターと入手する情報の内容との関連

カイ2乗検定及び残差分析で有意差が見られた項目は、多くが競技志向レベルや指導対象世代と関連していると考えられ、クラスターによって各内容に対する必要性の認識が異なることが示唆される。有意差が見られなかった項目に関しては、入手する割合が低かった「スポーツ障害」「コミュニケーション」といった内容は、クラスターの特徴に関係なくあまり必要とされておらず、指導者の必要性の認識や知識状態が大きく関わっている可能性がある。

有意差の有無に関わらず、指導対象世代が青少年で競技志向レベルが高い指導者ほど、より多くの内容を入手する傾向にあった。今後は指導対象者が成人で競技志向レベルが低い指導者にも、情報入手の重要性を周知していく必要があるだろう。

4.3 各クラスターと使用する情報源との関連

カイ2乗検定及び残差分析で有意差が見られた項目は、入手する情報の内容で有意差が見られた項目と異なり、クラスター分析の投入変数との関連は一見して見えずらく、「指導対象者が誰なのか」といったことは入手する情報の内容ほど関係がないことが示唆される。有意差が見られなかった項目に関しては、経験的な情報源よりも公式的な情報源の使用が多く、先行研究と同様の傾向である。

5 結論

スポーツ指導者は6クラスターに分類され、性別、年齢、指導頻度、情報入手の有無に関して各クラスターにおける特徴が明らかとなった。

入手する情報の内容に関しては、競技志向レベルや指導対象世代といったクラスターの特徴によって各内容に対する必要性の認識が異なることに加えて、各内容に対する指導者の知識状態が影響を与えていることが示唆された。

使用する情報源に関しては、「指導対象者が誰なのか」といった点は情報源の選択にはそれほど関係がなく、「指導対象者が誰なのか」という視点でクラスター化した後に明らかとなった特徴と関連している可能性が高いことが示唆された。